

領域	授業科目	授業内容
人間と社会	人間の尊厳と自立	人間の生活にとって、尊厳と自立がいかなる意義を持つかを考えることを端緒にして、人権思想・福祉理念の歴史の変遷を学ぶ。人間の尊厳と自立を尊重した介護福祉が実際にはいかにして実現されるかについて、本人主体・自己決定等の考え方を手がかりにして考える。
人間と社会	人間関係とコミュニケーションⅠ	介護における人間関係の重要性を知るとともに、そうした人間関係を形成するためのコミュニケーションに関する知識を学ぶ。
人間と社会	人間関係とコミュニケーションⅡ	チームケアの実践のために必要な知識を理解し、組織の運営管理、人材の育成や活用等の人材管理等の方法を習得する。
人間と社会	社会の理解Ⅰ	家族・地域・組織等を手がかりとして、人間と社会の関係性について学び、人間の生活における社会の持つ役割について考える。人間と社会の関係を維持するためのしくみとしての社会保障の考え方と法や制度について学ぶ。
人間と社会	社会の理解Ⅱ	高齢者福祉・障害者福祉・権利擁護・保健医療等の各領域に関する法制度や施策について横断的に学ぶことを通して、介護福祉の実践に必要な知識を身につける。
人間と社会	日本の生活と文化	日本の年中行事、遊び、生活道具、学校生活（教育制度）など具体的に学ぶ。また、大学のある西東京市の地域を知り、地域の高齢者とかかわり、生活文化を理解する。積極的に地域に出向き、地域と協力する力の育成を目指す。
人間と社会	情報処理	情報機器による文書作成、表・グラフ作成、プレゼンテーション資料作成の方法を学修するとともに、インターネットを用いた検索、メール・SNS等の活用方法を習得する。
人間と社会	現代社会論	国際化、情報化、高齢化等のマクロ的特色から現代社会を考察するとともに、そうした特色を有する現代社会における地域、家族、職場等の集団のありようを学修する。

領域	授業科目	授業内容
介護	介護の基本Ⅰ	介護とはなにかについて考えることを契機にして、介護に関する基本的理念等を学修し、生活支援としての介護のあり方を考察する。
介護	介護の基本Ⅱ	介護福祉士の実践の根拠となる法制度を学ぶとともに、介護福祉士の職能団体のありようや倫理について理解する。
介護	介護の基本Ⅲ	自立に向けた介護のための方法として QOL や ICF について学ぶとともに、介護を必要とする人の理解のために生活ニーズを把握する方法を学ぶ。
介護	介護の基本Ⅳ	介護サービスやケアマネジメントについて理解をするとともに、そうした介護サービス実践の具体的な場としての居宅サービス並びに施設サービスについて学ぶ。
介護	介護の基本Ⅴ	医師・看護師・社会福祉士・理学療法士等の介護福祉士に関わる多職種についての理解を深めるとともに連携の方法を学ぶ。地域における公的機関・社会福祉法人・NPO・地域ボランティア等についての知識を習得し、その連携方法を理解する。
介護	介護の基本Ⅵ	介護福祉の実践における安全確保とリスクマネジメントの重要性を理解し、事故や感染症に関する知識を学び、その対策を習得する。
介護	コミュニケーション技術Ⅰ	介護において利用者やその家族とのコミュニケーションがいかなる意義を持つかを理解し、そうしたコミュニケーションの実現のための具体的な方法を学ぶ。
介護	コミュニケーション技術Ⅱ	コミュニケーションに関する障害を持つ人の特性を理解し、それぞれの特性に応じたコミュニケーションの技術を習得する。介護におけるチームのコミュニケーションの重要性とその具体的な方法を学ぶ。

領域	授業科目	授業内容
介護	生活支援技術Ⅰ	自立に向けた居住環境の整備、移動の介護、身じたくの介護をＩＣＦの視点に基づくアセスメント、生活支援に生かすことの意義を理解する。状況に応じた介護の留意点について基本知識と技術を学ぶ。
介護	生活支援技術Ⅱ	授業は講義と演習を織り交ぜて行う。必要な知識については講義で教授し、その知識を実践的に演習で確かめていく。余暇活動は現在の施設や在宅で行われている内容を中心に教授する。また、レクリエーションは個人レクリエーション、集団レクリエーションで取り入れられている内容を体験しながら学ぶ。
介護	生活支援技術Ⅲ	自立に向けた入浴・清潔保持の介護、自立に向けた排泄の介護、自立に向けた食事の介護について、ＩＣＦの視点に基づくアセスメント、状況に応じた介護の留意点について基本知識と技術を学ぶ。
介護	生活支援技術Ⅳ	休息・睡眠の意義と目的、人生の最終段階における介護の意義と目的、ＩＣＦの視点に基づくアセスメント、状況に応じた介護の留意点について基本知識と技術を学ぶ。授業は、講義と演習を織り交ぜて行う。
介護	生活支援技術Ⅴ	疾病、障害の理解を深め、根拠に基づいた介護実践を行うために、介護の留意点について基本知識と技術を学ぶ。
介護	生活支援技術Ⅵ	住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備についての基礎的な知識を理解する。ノーマライゼーション・リハビリテーション・自立支援の考え方を踏まえ、介護福祉における生活環境の中の住環境について理解を深める。その上で福祉住環境整備の基本技術や手法、福祉用具の具体的な活用法について学ぶ。また、建築関連法規や介護保険法関連については具体的事例を通して学ぶ。
介護	生活支援技術Ⅶ	生活の継続性を支援する観点から、対象者の個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を理解する。授業は講義と演習を織り交ぜて行う。必要な知識については講義で教授し、その知識を実践的に演習で確かめていく。技術は衣生活に関する演習、食生活に関する調理を行う。

領域	授業科目	授業内容
介護	介護過程Ⅰ	介護サービスを必要としている人が誰であっても、どのような生活場面であっても、生活上での課題を理解して、より利用者らしい生活に近づけられる支援をするためには「介護過程」という考え方ができることが必要である。演習を通して「支援を進める際の考え方」を身につける。
介護	介護過程Ⅱ	生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。
介護	介護過程Ⅲ	利用者の理解やアセスメント、計画などを多角的な視点から考え、根拠に基づき意見を述べることができる。
介護	介護過程Ⅳ	介護実習Ⅲでの事例を振り返り、介護過程の展開の意義や方法の理解を深めることができるように授業を進めていく。
介護	介護総合演習Ⅰ	授業は、講義と演習を織り交ぜて行う。必要な知識については講義で教授し、その知識を実践的に演習で深めていく。実習施設・事業所の基礎的な理解、個人票などの提出物の作成、実習計画の作成、記録作成方法について、演習等の授業を構成する。
介護	介護総合演習Ⅱ	介護実習Ⅱの実施に向けて、実習の概要や目的を理解し、自己の実習目標と課題を明確にする。
介護	介護総合演習Ⅲ	介護実習Ⅲの実施に向けて、実習の概要や目的を理解し、自己の実習目標と課題を明確にする。

領域	授業科目	授業内容
介護	介護実習Ⅰ	介護実習Ⅰの位置づけとなる科目である。介護実習Ⅰは、小規模多機能居宅介護、通所介護事業所（デイサービス）、通所リハビリテーション（デイケア）のいずれかにおいて、計10日間の実習を行う。
介護	介護実習Ⅱ	介護実習Ⅱの位置づけとなる科目であり、介護老人福祉施設・介護老人保健施設、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）で行う6週間（計24日間）の実習である。介護過程の実践的展開を行う準備として、介護計画立案をするための基礎的な実習として、位置づけられる。前半の実習（12日間）は、地域での事業所の役割や職員の役割等を理解し、介護技術の実践を行う。後半の実習（12日間）は、受け持ち担当利用者を決める。利用者の生活リズムや個性の理解を深める。利用者に寄り添いながら、ニーズを把握する。介護計画を立案する上で、不可欠な多職種協働の実践について、より実践的に学べるよう介護職員以外の多職種からの助言や指導も受ける。
介護	介護実習Ⅲ	介護実習Ⅱの位置づけとなる科目であり、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）で行う実習である。介護実習Ⅱと同一施設において、23日間実習を行う。介護計画の実施、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正を行う。一連の介護過程の展開に関する実践の理解、実践力を習得する。

領域	授業科目	授業内容
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解Ⅰ	人間の成長と発達の基礎的理解、老年期の発達と成熟、老化に伴うこころとからだの変化と日常生活、高齢者と健康について基本的事項を学ぶ。
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解Ⅱ	高齢者の体調に関する訴えや罹患率の高い疾患の症状や留意点について学ぶ。また、保健医療職との連携方法とその必要性について学ぶ。
こころとからだのしくみ	認知症の理解Ⅰ	認知症のケアの歴史や理念を学び、認知症の医学的、心理的側面に関する基本的な知識について学ぶ。
こころとからだのしくみ	認知症の理解Ⅱ	認知症に伴う生活への影響について理解する。また、認知症ケアを理解するための基礎的な知識を学ぶ。
こころとからだのしくみ	障害の理解Ⅰ	障害のある人の生活支援の根拠となる障害の医学的・心理的側面の基礎的理解や障害を引き起こす様々な疾患の基礎知識を学ぶ。障害のある人の日常生活への影響やアセスメントの視点を深める。
こころとからだのしくみ	障害の理解Ⅱ	障害のある人の生活支援の根拠となる障害の医学的・心理的側面の基礎的理解や障害を引き起こす様々な疾患の基礎知識を学ぶ。障害のある人の日常生活への影響やアセスメントの視点を深める。地域の連携や障害者の家族、多職種との協働について学ぶ。
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅠ	人間の欲求や自己概念などのこころのしくみを理解し、生命の維持などのからだのしくみを学ぶ。また、介護実践のために根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅡ	移動に関連したこころとからだのしくみ、身じたくに関連したこころとからだのしくみを学び、介護実践の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解することをねらいとする。



領域	授業科目	授業内容
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅢ	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ、排泄に関連したこころとからだのしくみを学び、介護実践のために根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解することをねらいとする。
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅣ	介護実践のために根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について学ぶ。
医療的ケア	医療的ケアⅠ	医療的ケアを安全・適切に実施するために、必要な知識・技術を習得する学習とする。
医療的ケア	医療的ケアⅡ	喀痰吸引について根拠に基づく手技が実施できるよう基礎的な知識を学ぶ。喀痰吸引を安全、適切にできるよう実施手順方法を学ぶ。経管栄養について根拠に基づく手技が実施できるよう基礎的な知識を学ぶ。経管栄養を安全、適切にできるよう実施手順方法を学ぶ。
医療的ケア	医療的ケアⅢ	医療的ケアⅠ・Ⅱで学んだことを基礎に、シミュレーターを用いて基本的な喀痰吸引、経管栄養の技術を身につける。